

令和4年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

生徒一人一人が相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、建学の精神(「産業界の第一線に貢献する人材の育成」)と校訓(「創造」「躍動」「貢献」)を慕び、いかなる時流においても生き抜く力を身につけさせる教育を実践する。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ②基本的生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

未来に向けて、生徒・職員「心一つにして新たな学校づくりをめざしていく。本校では、生徒一人ひとりの人間力向上を真ん中に据えた教育を実践し、教職員は、生徒たちに熱い思いをもって指導し、一人ひとりに寄り添いながら、次の3つの心を育てていく。

- ・向上心:夢に向かって勉強や部活動に打ち込み、自己を高めていく心
 - ・自律心:社会的マナー・服装等を整え、清く正しい生活をめざす心
 - ・優しい心:人との絆を大切にし、人の心の痛みや苦しみを思いやる心
- 本年度のキャッチフレーズとして「心一つにみんなで創る佐賀学園」を掲げ、生徒一人ひとりの「人間力」を高め、それらが大きなまとまりとなることで、本校の飛躍につなげていきたい。
- ◎日々の取組み
 - 〈授業〉
 - ・教職員が日々自己研鑽に努め、授業のねらいを定め、板書計画や発問等を準備した上で、分ける授業・生徒を惹きつける授業を実践する。電子黒板の積極的活用はもちろん、本年度から導入する「生徒1人1台タブレット」も有効に活用しながら、新時代の教育の在るべき姿を模索する。
 - 〈部活動〉
 - ・部活動加入率を高め、その充実・強化について更に力を注ぐ。文化部・運動部を含め、5部以上が県レベルで1度は優勝することを目標とする。更なる高みを目指し努力する姿勢こそ生きる力につながることを伝えていく。
 - 〈キャリアデザイン〉
 - ・週1時間の「総合的な探究の時間」において、生徒一人ひとりが将来の自分の生き方をデザインできる力を育む。学年ごとに、進路ガイダンス、大学・企業訪問、産業界の第一線で活躍する方の講話などを年間計画に織り込み、様々な実践に取り組む。また、成人年齢引き下げについても、生徒たちの意識啓発を図る。
 - 〈人権・同和教育〉
 - ・人権・同和教育の充実を図り、差別を許さない心や、障がいのある方・在留外国人・LGBTなど様々な人々との共生を受け容れる心を育んでいく。
 - 〈SNSに関しての指導〉
 - ・生徒の安心安全を守るために、ネット社会の危険を周知し、SNS等の利用について常に注意喚起をする。スマートフォンなどを使って、不適切な情報発信をすることで人を傷つけ、逆に、自分が誹謗中傷を受けたり、誤って出会い系や犯罪に誘うサイトにつながることで、大きな被害を受ける可能性があることを深く受けとめさせる。
 - 〈学校開放講座・地域交流の実践〉
 - ・保護者や地域の方向けの、本校職員による「大人の英会話」を本年度も開講する。
 - ・情報処理科・商業科の課題研究の紹介、販売実習の一環として、本年度も地域の方に門戸を広げる「佐学マルシェ」を実施する。
 - ・吹奏楽部はコンクールだけでなく、小中学校・特別支援学校に出向いて交流演奏を行う。
 - ・生徒会やJRCを中心に、積極的に地域へ向かい、ボランティア活動を行う。

4 前年度の成果と課題

- ・生徒募集と広報活動(PR活動充実・発信力強化)の一体化・令和5年度の普通科コース改編の周知、地域連携・地域交流事業の充実
- ・1人1台タブレット導入・分かりやすい授業の実践(できるところから活用)に取組み、同時に保管についても心を砕く
- ・部活動の充実・高いレベルでの文武両道が図れるよう、部顧問が学力の維持向上を意識することが必要である。そのために成績高等部(特別進学科)をどう発展させるかが鍵となる。
- ・「キャリアデザインタイム」の充実・成人年齢引き下げに伴う意識啓発・進路指導部主催の進路ガイダンスとの連携。
- ・進路指導部と第3学年連携の強化・国公立大学合格増、私立大学理一般試験対応の充実、高い資格を有した生徒を事務職に送り出すこと
- ・基礎学力要請・トトレ及び朝読書の時間の充実
- ・優しく思いやりのある心の育成・不登校傾向の生徒の学級復帰支援、SNS等の問題事案へ対応、人権尊重意識の醸成
- ・生徒・職員一体となった学校づくり・校則の見直し、学校の規律を保ちながら生徒の意見を反映させていく

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方法	評価	成果と課題
学校運営	学校経営方針	・本年度のキャッチフレーズ及び重点目標(「人間力の向上」)を生徒・保護者に周知することができたか。 ・本年度の重点目標にある3つの心を生徒に浸透させることができたか。 ・本年度の重点目標の「日々の取組み」について、職員がよく取組み、成果を挙げているか。	・学校評価アンケートにより、本年度の重点目標(「人間力の向上」)を知っている生徒・保護者の割合を40%以上とする。(昨年度 生徒23%,保護者20%) ・SNSを使った問題事案(他者への誹謗中傷)や人権侵害にあたる発言をするといった事案を発生させなかったか。 ・日々の取組みについて、担当分掌等が主体的に取組み、職員全員が中学校説明会やオープンスクールにおいて、十分にそれらをふまえて学校PRを行い、生徒募集に反映できたか。	・全校集会で生徒に対して、学校通信を通して保護者にも、本年度のキャッチフレーズや重点目標及び3つの心を随時伝える。 ・学校の教育活動をウェンペーパーで示したグランドデザインを改訂し、生徒募集に活かす。 ・「日々の取組み」について、校長は担当分掌の部長や学年主任と協議し、進捗状況を確認する。 ・校長は授業見学をし、それを通した職員との面談の機会を増やす。また、研究授業の実施や教科ごとの指導検討会等を開くよう促す。 ・校長は、日常の部活動を視察することに心がける。 ・外部機関や地域との連携を積極的に図る。また、校長は担当分掌や学年が動きやすいように情報を収集し提供する。	B	・キャッチフレーズとして掲げていた「心一つにみんなでつくる佐賀学園」は浸透したと思うが、まだ、自分たち一人一人が学校そのものを現わしているというところまでは受け止めさせられなかった。 ・グランドデザインはまとまった。来年度以降も貴重なPR材料として活用したい。 ・「日々の取組み」の中では、部活動は、バレー、サッカー、珠算電車、吹奏楽などの活躍が目立ち充実していた。しかし、「SNSに関する指導」では本年度も大きな課題を残した。規則で抑えつけるのではなく、相手との関わりを大切にする心を育てることが肝要。地域交流の実践の面では、本年度も地域の方に門戸を広げる「佐学マルシェ」は好評だった。また、コロナが少し和らぎ、吹奏楽部が特別支援学校に出向いて交流演奏を行うことができた。
	生徒募集 (広報活動)	・募集定員を確保できたか。 ・本校の魅力や特色を中学生、保護者及び中学校に正しく伝えられたか。 ・広報と募集が一体化し、パンフレット・HPの充実、PRビデオ・グランドデザインの作成及び活用が図れたか。 ・全職員が一体となって募集活動が行えたか。 ・普通科のコース改編について周知できたか。	・受験者数、推薦115名、専願60名、併願80名を目標とし、定員255名を確保する。 ・本校を身近に感じてもらえるよう、従来のパンフレット、チラシ等に加えて、SNSを活用した情報発信を行う。 ・全職員による中学校及び塾訪問を行う。	・前同様に臨まないよう、事業の検証・効果の確認を行う。 ・募集関連事業の実行委員会に限らず、職員から斬新なアイデアを広く求める。 ・立地の良さ、進路・校定取得実績、生徒一人一人に寄り添った教育プログラム、活発な部活動の実績をアピールする。また、普通科のコース改編については、各コースの特色をアピールする。 ・国の就学支援金制度、本校の優遇制度などの充実したサポートについて周知する。	A	・推薦105名、専願82名、併願84名、合計271名の入学予定者を確保。定員の280名を上回ることができた。 ・従来のパンフレットやチラシに加えて、SNSの発信を積極的に行い、本校の学校活動への認識が高まった。 ・全職員の募集への意識に差があるため、研修会等を行い、認識の共有を図る必要がある。 ・生徒のニーズや本校の強みの分析、特色づくりが喫緊の課題である。
	学校事務	・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・コミュニケーション能力の更なる向上を図る。 ・各自が担当業務の処理能力向上を図る。	・来校者や架電者の立場に立ち、正確かつ迅速な対応を心掛ける。 ・優先順位、時間管理を意識した業務遂行を実践する。 ・気持ちの良い挨拶の行動を継続する。	B	・お客様来迎時及び電話口での正確かつ迅速な対応、また気持ちの良い挨拶は励行できている。 ・正しい敬語使用については、習得へ向け更なる意識づけを図っている。 ・事務職員の急病等不測の事態に対応できるBCP体制(業務継続プラン)を構築するために、各人の業務量や仕事の質をさらに向上させる必要がある。
	職員の指導力向上	・電子黒板やタブレットを活用した授業が広がったか。 ・学習指導要領の改訂や、社会の変化に対応した意識した教育の実践ができたか。 ・内容が豊富で、わかりやすい授業ができたか。 ・定期考査(中間・期末)の問題は充実したか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加し、指導力の向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各校分掌で企画する。 ・教育センター研修講座に3年間で1回以上参加する。 ・教員それぞれ、電子黒板、タブレットを活用した授業を意識して実践する。 ・各教科で研究授業を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・各教科会で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる。 ・教科指導、進路指導、生徒指導などの領域で先進的な取り組みをしている学校を訪問する。	B	・電子黒板・タブレットを活用した授業実践はかなり広がった。 ・学期当初に公開授業を設定することはできなかったが、教員個々に研究授業を積極的に行おうとする機運は広がった。 ・私立学校協会の研修には将来を担う職員を派遣することができたが、先進校視察はできなかった。
教育活動	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立。 ・「分かる授業」「生徒を惹きつける授業」を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身に付けさせる。 ・電子黒板・タブレットを有効的に活用する。 ・各教科会を機能させ「分かる授業」「生徒を惹きつける授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。全職員が授業評価の項目ごとの達成度85%以上を目指す。 ・日常的に課題を課し、評価する。 ・生徒一人ひとりに寄り添った指導を行う。	B	・タブレットがトトレや授業に有効活用され視覚的にも分かりやすい授業ができるようになった。 ・生徒の理解が深まる。タブレットの利用と板書の仕方を研究する。 ・多くの先生方の授業評価の達成度は85%以上を達成できた。全職員が達成できるように、教科会で情報を共有し、授業実践を行う。
	進路指導	・各学年における進路ガイダンス等がキャリア教育に活かされ、進路意識が具体的な行動に反映されたか。 ・進路を実現できるための基礎学力がついたか。 ・生徒の覚悟ある進路実現に繋がったか。	・学年に応じた充実した進路ガイダンス等を計画、実施する。 ・受験に対応した学力の定着と校内学力判定テストや基礎力診断テストによる学習力(GTZ)の向上を図る。 ・就職内定率100%、大学進学合格率アップを目指す。	・大学進学希望者に対する長期休業中のセミナーの開講や個別指導、また、基礎学力定着のための補習の実施による学力の定着を目指す。 ・3年生に対する総体後の勉強会、夏季休業中の進学対策と就職対策の学習会や小論文・志望理由書、書類の書き方等の指導を行う。 ・各学年に対する進路講話、生徒のテーマの分析、入試や企業の研究を行い、進路指導部と学年間で進路情報を共有し、ミスマッチのない進路指導につなげる。 ・進路指導部と学年で連携し、キャリアデザインタイムを計画する。	A	・就職内定率、大学合格率ともに目標を達成。生徒の状況把握と早期からの個別指導により6名合格。私大への推薦、総合型で出願した生徒の合格率も高かった。 ・ガイダンスについては、内容や参加校について検討、改善し生徒の意欲につながるよう実施していく。 ・大手企業への内定のために、面接や学科試験対策を強化していく。
	生徒指導	・交通ルール・マナーは守られているか。 ・公共利用マナーの意識向上に努めているか。 ・正しい制服着用はできているか。 ・思いやりの心を持ち、自分を大事にしているか。	・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他者に対する思いやりの心を育む。 ・制服を正しく着る。 ・SNSによるトラブルがないように注意する。SNSの利用については、23時から6時まで控えさせる。	・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。加害事故0を目指す。 ・生活習慣の向上を意識させる。 ・全校集会、学年集会を通じて、内面的指導を充実させる。 ・SNS利用ルールを守り、不必要な使用を控えさせる。	B	・公共利用マナーの向上、他者を思いやる心の育成に力を注いだ。 ・SNS利用についての更なる意識向上に努め、生徒への内面的指導を充実させる。
	環境美化	・清掃が隔々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・自ら清掃活動に参加しているか。 ・感染症対策に各自取り組めているか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。 ・校内美化意識を向上させる。 ・校内の感染症対策用品を充実させる。	・美化コンクールを実施する。 ・ペットボトルの分別を徹底する(ラベルを剥がし、キャップは別に回収) ・全員清掃の時間を設ける。 ・清掃用具の不足を減らし、清掃する環境を整える。 ・生徒保健委員会の活動として校内のアルコール等を点検、補充する。	B	・美化コンクールが定期的に実施できなかった。教室以外でのごみの分別が徹底できなかった。コロナ感染は減少しているが引き続き感染症対策の意識づけは必要である。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し社会性や強い精神力を身に付け、人間性を高めることができたか。 ・学校の活性化につながることができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任、副担任、顧問との連携を密にし、各部活動の部員数を増加させる。	・文武両道が実践できるように部活動のみならず授業にも真剣に取り組ませる。	A	・部活動加入率の向上、進学実績の向上をなしたと思う。今後も本県だけにとどまらず、全国に校名が轟くような実績を残せるようにしていきたい。
	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・学級担任・学年主任・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われ、学校又は教室への復帰がなされたか。 ・教育相談室登校の生徒への学習指導と適切な評価が行われたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち、友人関係を築き、所属学級へ戻ることができる。 ・教育相談室での学習や学校行事に積極的に取り組み、達成感を得る	・職員の連携を密にし、保護者との連携を図り生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させ心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようにサポートする。 ・Q-Uを活用し生徒が安心して過ごせる学級作りを行うためのサポートを行う。 ・発達障害等を抱える生徒への対応についての研修会を行う。 ・学級担任・教科担当者との連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力の向上を図る。 ・学校行事では相談室独自で参加できるような内容を企画する。	B	・相談室登校の生徒は少なかったが、教室に復帰した生徒はいなかった。Q-Uを活用した学級づくり・居場所づくりがさらに重要になってくる。 ・相談室での学習は教科担当者から課題や検定対策が主となった。学力定着のためにタブレットを利用した学習も要検討である。 ・研修会を実施することで、全職員の生徒への対応力を向上させたい。
特定課題	マナー指導	・校内外でのマナー、交通マナー、挨拶などの規則、ルールが守られているか。	・進路決定や外部からの見た生徒の立ち振る舞いのマナー向上を目的とする。	・日頃から目配り、気配りをしながら注意指導し、金曜日に行うマナー指導を通し体得させる。	B	・服装面での指導は改善傾向にあるが、携帯電話で指導を受けた生徒が大半であった。2学期からは以前の指導とは変えし、マナー指導担当者からの指導後、玄関先で挨拶運動を行うようにした。今後は、マナー指導がないように目指していきたい。
	生徒会活動	・校内外の問題を自主的に考え行動し社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。 ・生徒指導部職員とともに校則の見直しを協議する。	・生徒会での議論を増やし、関連分掌・学年・学級の垣根を越えて連携を図る。	A	・生徒主体での活動が徐々に実施できている。より学校が活性化できるように職員、生徒が一丸となって取り組めるよう指導していきたい。
キャリア教育・トトレ		・トトレの学習内容を理解させて、生徒に基礎学力を身につけさせることができたか。 ・キャリアデザインタイムを通じて、自分の将来について真剣に考え、個々の適性に合った進路選択や実現を目指した取り組みができたか。	・トトレ及び基礎力診断テストを活用して、GTZの値が02ゾーン以上の学力に向上させることを目標とする。 ・生徒への定期的な面接や進路ガイダンス、諸検査を通じて自己の適性を知り、日常的教育活動の中で自己表現力や礼儀作法を身につけることを目標とする。 ・3年次の進路決定を目指した取り組みの際には個々にあった適切な面談を行い、卒業後の進路変更や早期離職につながらないようにすることを目標とする。	・トトレの教材作成から教科毎にねらいを設定し、定着させたい学習内容を常に精査し、学力向上に直結する課題作成に取り組む。 ・全職員が生徒に学習内容を定着するために予習を行い、より効果的なフォローアップが出来る体制づくりに取り組む。 ・確認テストや基礎力診断テストを分析しながら、長期休業中や放課後の学習会を通して、学力向上につなげる。 ・面接における質問内容や実施方法について、職員研修等を実施しながら、生徒への適切な指導や助言内容の充実を図りたい。	B	・基礎力診断テストのGTZ値を、事前対策等を実施して向上させることに成功した。今後はABゾーンの生徒に対しての個別指導を行ってさらなるアップを目指したい。 ・休業中のセミナー参加者数をさらに増加させたい。また、トトレ補習については放課後を利用した学習会を実施して対応したい。 ・進路決定を目指したサポート体制の充実。生徒に対しては様々な進路行事を通して必要なスキルの向上を目指していきたい。